

## 第 3 章

---

### 少子化対策に関する分析



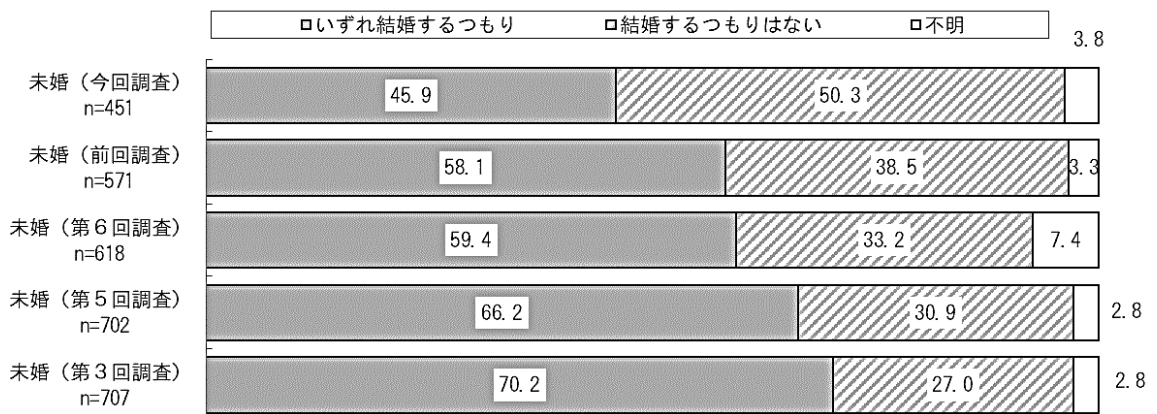
# 第1節 結婚や家族に関する現状と分析

## 1 結婚に対する考え方

### (1) 過去からの推移

結婚に対する考え方について、未婚の「いずれ結婚するつもり」を選んだ割合が、第3回調査以降、次第に低くなっています。

図表3-1-1 結婚に対する考え方

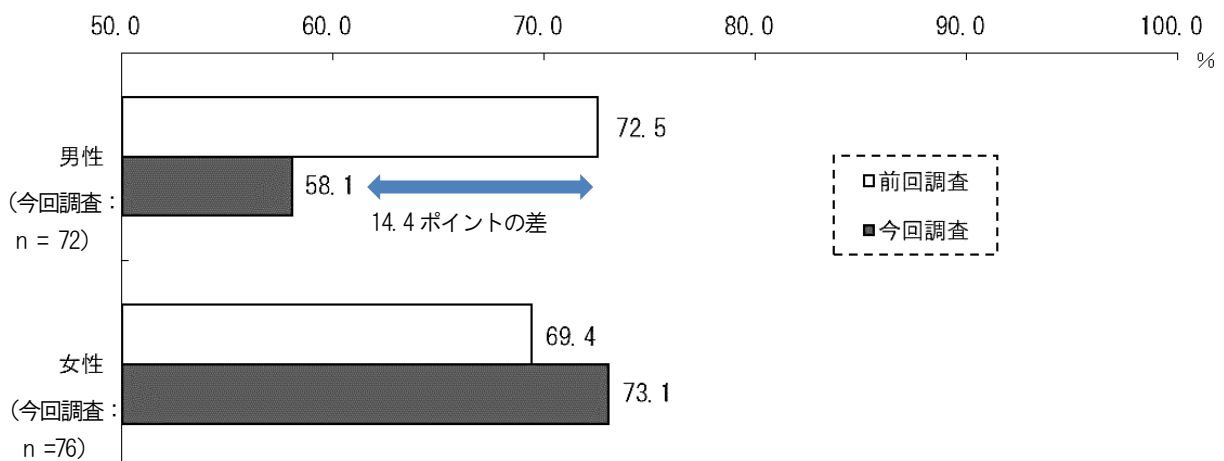


※第1回、第2回及び第4回では結婚の意向について質問していないため、上記のような比較となっています。

### (2) 結婚への希望×性別×未婚 (18~40 歳代)

結婚に対する考え方について、18~40 歳代の未婚に限定して分析してみると、男性の58.1%、女性の73.1%が「いずれ結婚するつもり」と回答しています。女性については、前回調査より3.7ポイント高くなっており、男性は14.4ポイント低くなっています (図表3-1-2)。

図表3-1-2 未婚者の結婚意向 (18~40 歳代の未婚)

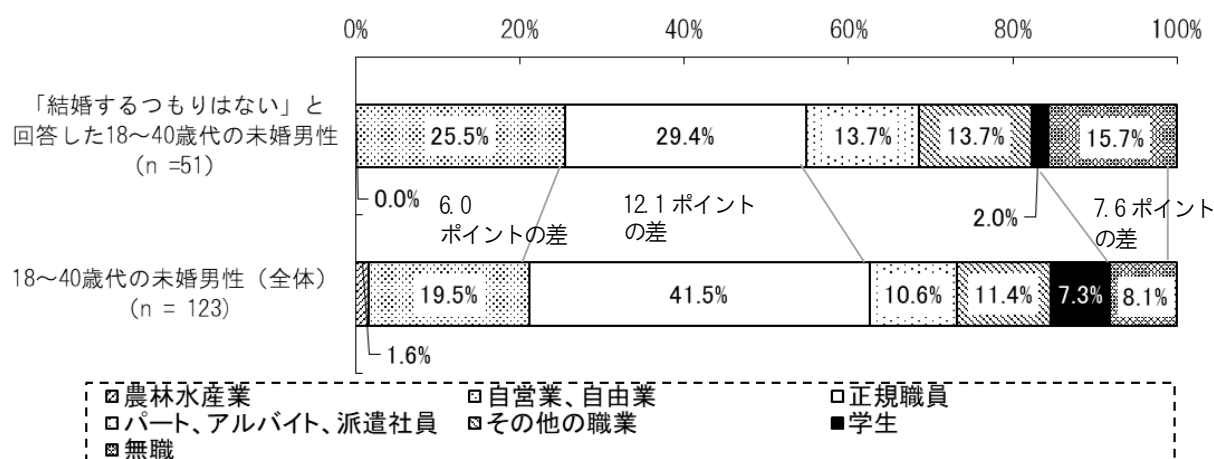


## (2) 結婚への希望×未婚×職業 (18～40 歳代)

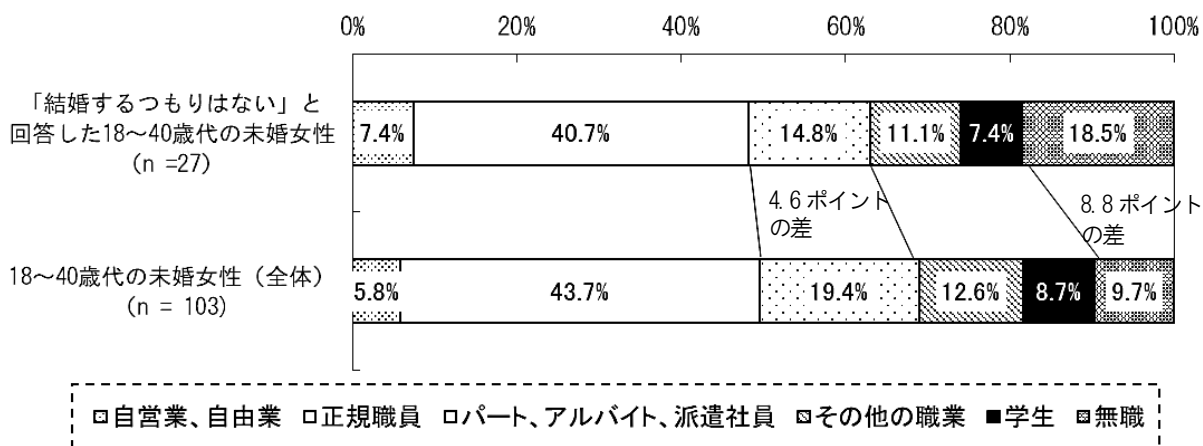
18～40 歳代の未婚の男性・女性の職業と結婚への希望をクロス分析したところ、「結婚するつもりはない」と答えた男性では、18～40 歳代の未婚の男性全体より正規職員の割合が12.1ポイント低くなっている一方で、自営業・自由業では6.0ポイント、パート・アルバイト・派遣社員では3.1ポイント、無職では7.6ポイント高くなっています(図表3-1-3a)。

「結婚するつもりはない」と答えた女性の場合、18～40 歳代の未婚の女性全体よりパート・アルバイト・派遣社員の割合が4.6ポイント、正規職員が3.0ポイント低くなっている一方で、無職では8.8ポイント高くなっています(図表3-1-3b)。

図表3-1-3a 職業別「結婚するつもり」「結婚するつもりはない」と回答した者の割合 (18～40 歳代の未婚の男性)



図表3-1-3b 職業別「結婚するつもり」「結婚するつもりはない」と回答した者の割合 (18～40 歳代の未婚の女性)

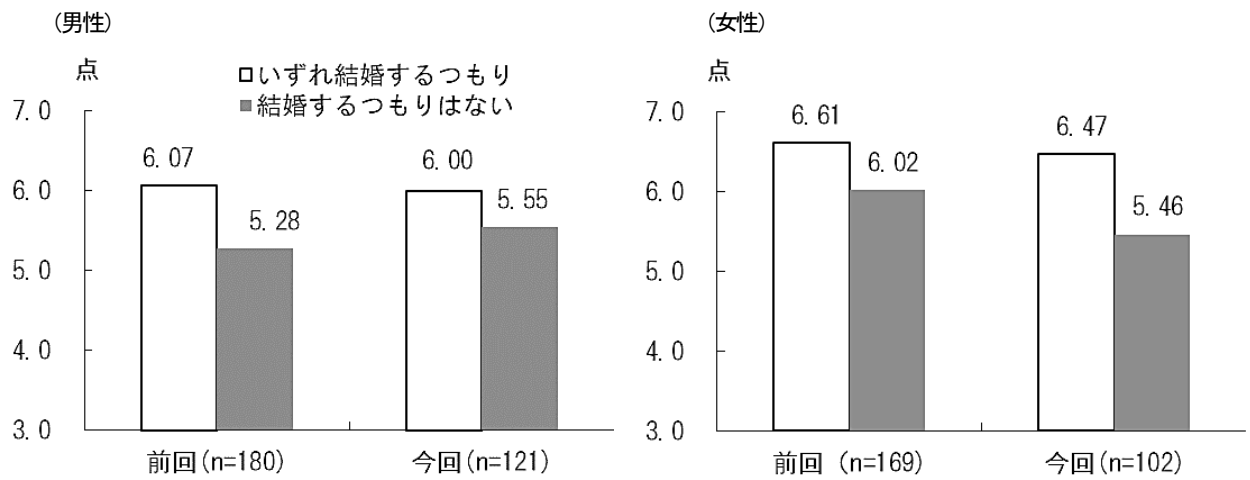


## (3) 幸福感×未婚 (18～40 歳代)

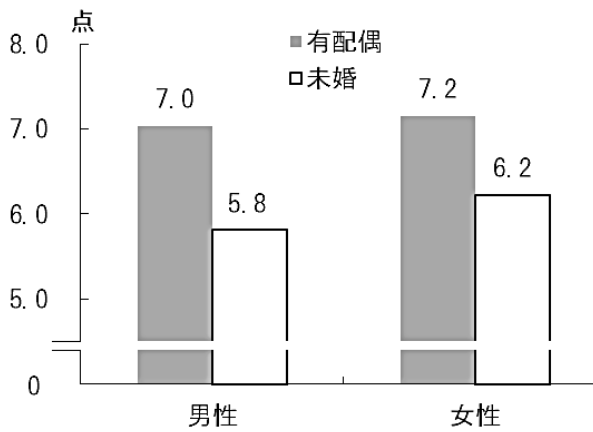
18～40 歳代の未婚と幸福感とをクロス分析したところ、男性では「結婚するつもりはない」と回答した人の幸福感は5.55で、「いずれ結婚するつもり」と回答した者の幸福感6.00より、0.45点低くなっています。女性では「結婚するつもりはない」と回答した者の幸福感は5.46で、「いずれ結婚するつもり」と回答した者の幸福感6.47より、1.01点低くなっています。(図表3-1-4)。

一方、前回調査と今回調査とを比較すると、男性の場合、「いずれ結婚するつもり」と回答した者と「結婚するつもりはない」と回答した者のそれぞれの幸福感の差が小さくなっています。

図表 3-1-4 「いずれ結婚するつもり」と回答した者と「結婚するつもりはない」と回答した者の幸福感（18～40 歳代の未婚男女）



(参考) 未婚と有配偶の幸福感（今回調査：18～40 歳代の男女）

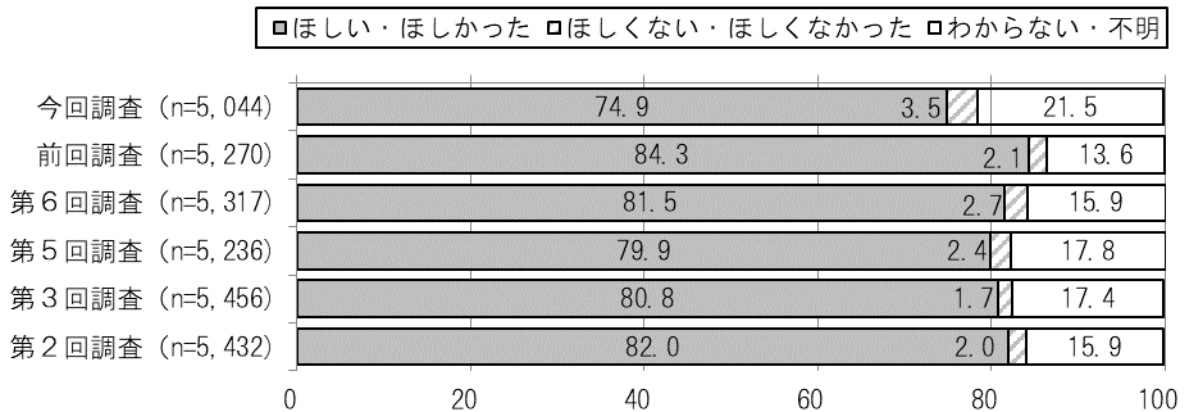


## 第2節 妊娠・出産、子育てに関する現状と分析

### 1 子どもを希望する割合の推移（18～40歳代）

子どもの希望について、「子どもがほしい・ほしかった」の割合は74.9%で、前回調査より9.4ポイント低くなっています。

図表3-2-1 子どもを希望する割合



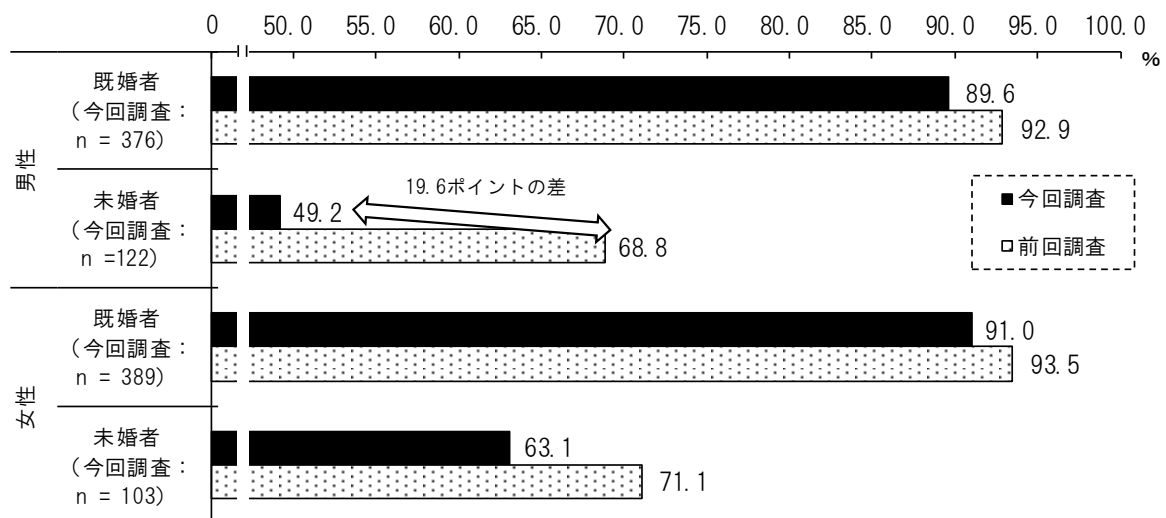
※第1回、第4回では子どもの希望について質問していないため、上記のような比較となっています。

### 2 属性別の子どもの希望

#### (1) 性別×未婚・既婚別×子どもの希望（18～40歳代）

子どもの希望を質問したところ、18～40歳代のうち、子どもがほしいと思う人の割合は、既婚者では男女ともに約90%となっています。また、今回調査ではすべての属性で前回調査より、希望する割合が低下しており、未婚の男性は、49.2%と、前回調査よりも19.6ポイント低くなっています（図表3-2-2）。

図表3-2-2 子どもを希望する割合（18～40歳代）

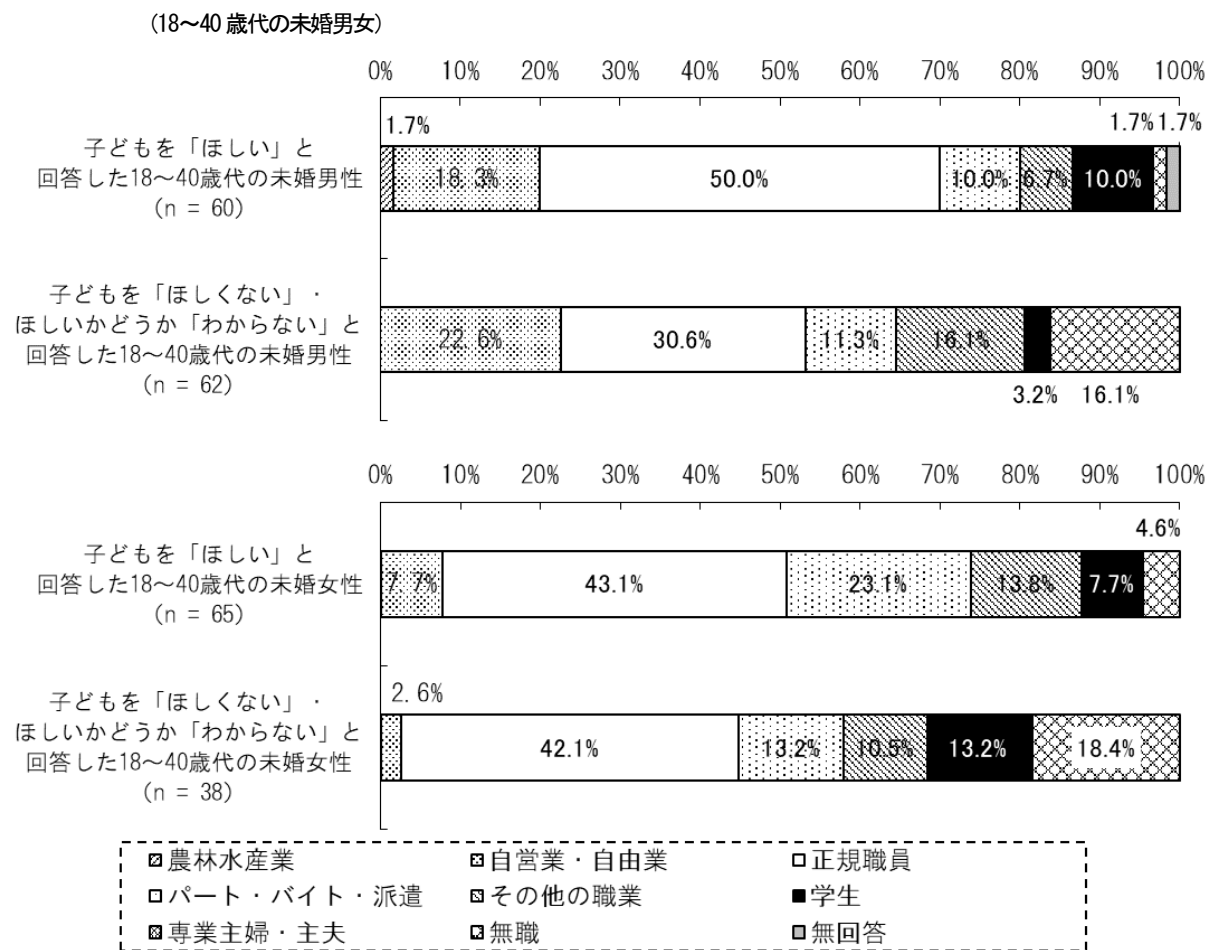


(2) 職業×性別×未婚×子どもの希望 (18~40 歳代)

18~40 歳代の未婚の男性・女性の職業と子どもの希望をクロス分析したところ、子どもが「ほしい」と答えた男性では、子どもが「ほしくない」または「わからない」と答えた男性より、正規職員の割合が19.4ポイント高くなっています。一方、無職では14.4ポイント低くなっています。

子どもが「ほしい」と答えた女性では、子どもが「ほしくない」または「わからない」と答えた女性より、パート・アルバイト・派遣職員の割合が9.9ポイント高くなっています。一方、無職では13.8ポイント低くなっています (図表3-2-3)。

図表3-2-3 子どもを「ほしくない」又はほしいかどうか「わからない」と回答した者の職業の割合



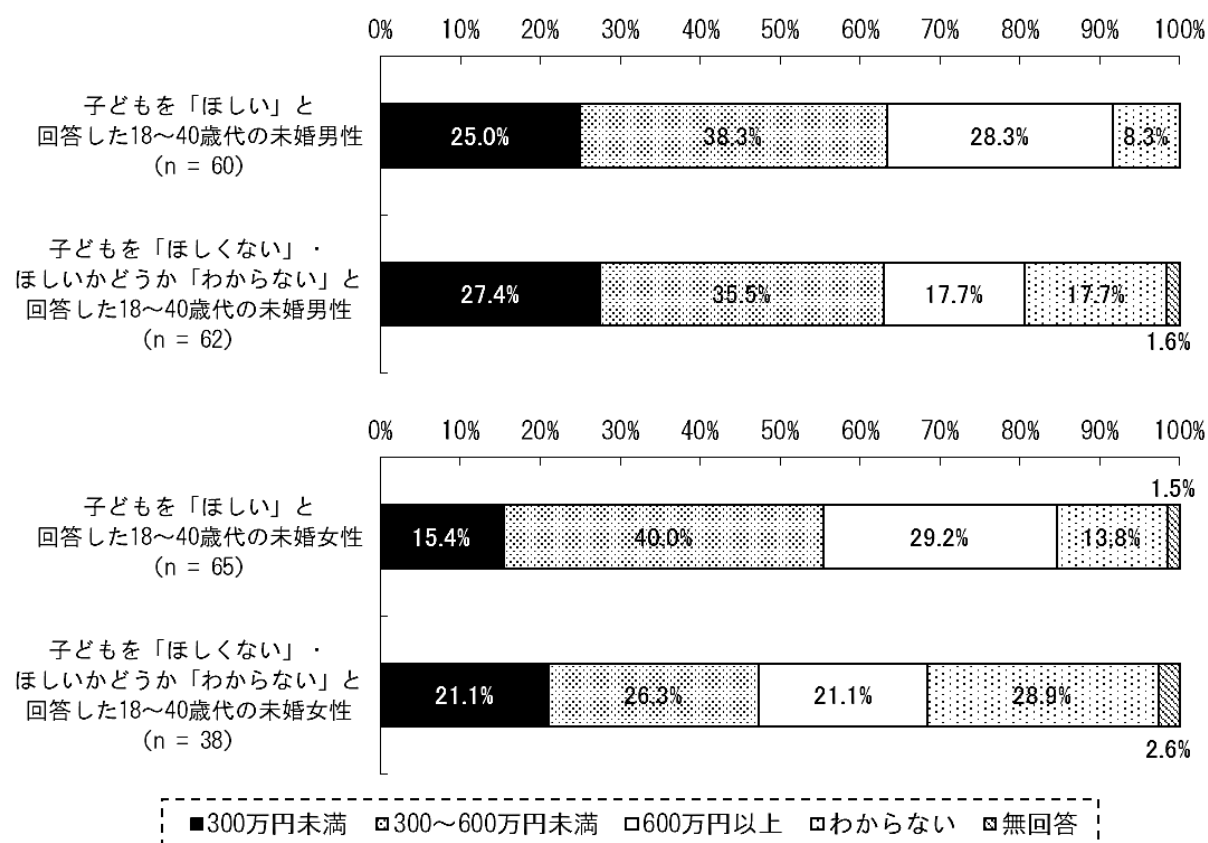
### (3) 収入別×性別×未婚×子どもの希望 (18～40 歳代)

18～40 歳代の未婚の男性・女性の世帯収入と子どもの希望をクロス分析したところ、子どもが「ほしい」と答えた男性では、子どもが「ほしくない」または「わからない」と答えた男性より、世帯収入 600 万円以上の割合が 10.6 ポイント高くなっています。

子どもが「ほしい」と答えた女性では、子どもが「ほしい」または「わからない」と答えた女性より世帯収入 300 万円以上 600 万円未満の割合が 13.7 ポイント、世帯収入 600 万円以上の割合が 8.1 ポイントそれぞれ高くなっています (図表 3-2-4)。

図表 3-2-4 子どもを「ほしくない」又はほしいかどうか「わからない」と回答した者の世帯収入の割合

(18～40 歳代の未婚男女)



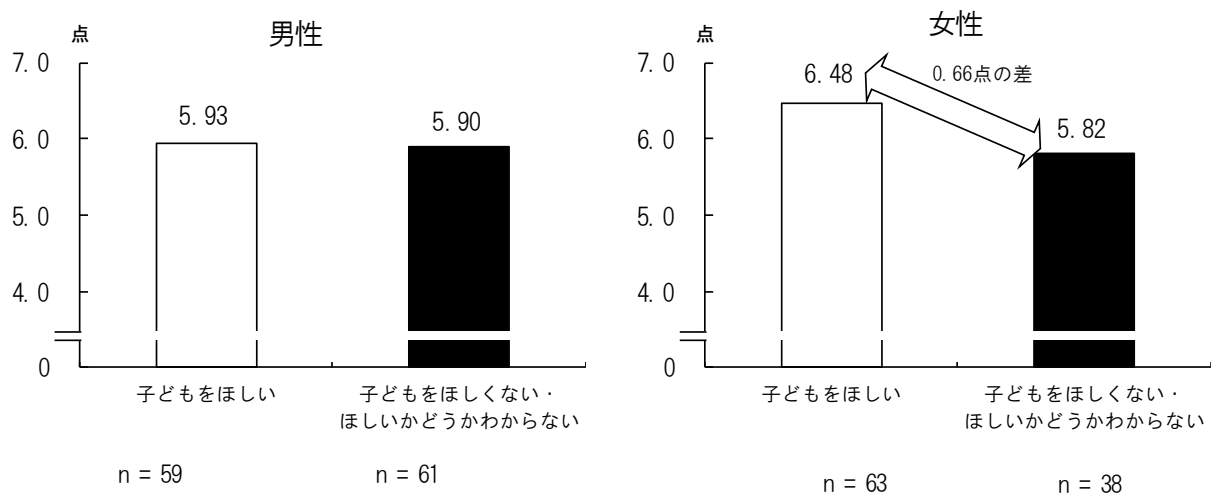


(4) 幸福感×未婚×子どもの希望 (18~40 歳代)

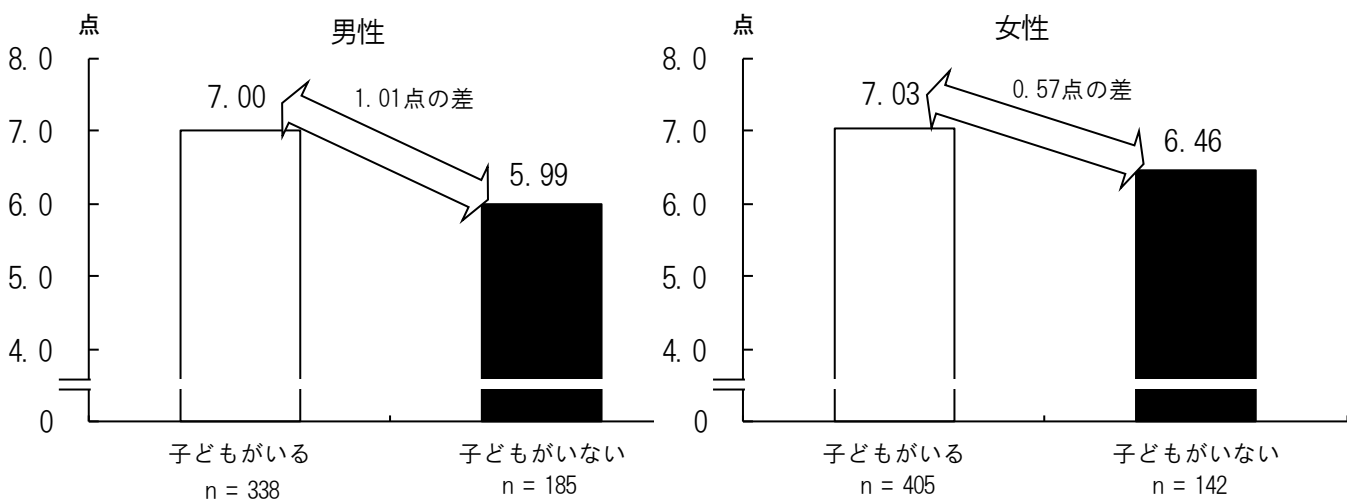
18~40 歳代の未婚の男性・女性のうち、幸福感と子どもの希望のクロス分析をしたところ、男性では子どもを「ほしくない」又は、ほしいかどうか「わからない」と回答した人の幸福感は 5.90 で、子どもを「ほしい」と回答した人の幸福感 5.93 と同程度でした。

また、女性では、子どもを「ほしくない」又は、ほしいかどうか「わからない」と回答した人の幸福感は 5.82 で、子どもを「ほしい」と回答した人の幸福感 6.48 より、0.66 点低くなっています。(図表 3-2-5)。

図表 3-2-5 子どもが「ほしい」と回答した人と子どもを「ほしくない」又はほしいかどうか「わからない」と回答した人の幸福感 (18~40 歳代の未婚の男女)



(参考) 子どもがいる層と子どもがいない層の幸福感 (18~40 歳代の男女)

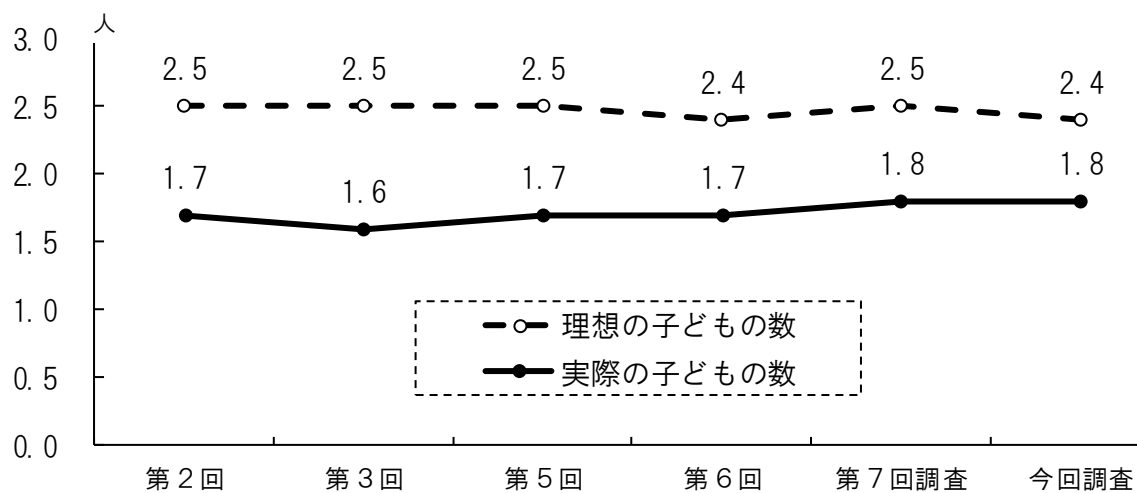


## 第3節 実際の子どもの数と理想の子どもの数の差の理由

### (1) 実際の子どもの数と理想の子どもの数の差の推移

第2回調査から今回調査における実際の子どもの数は1.6～1.8人となっている一方で、理想の子どもの数は2.4～2.5人となっており、実際と理想の子どもの数にギャップが生じています(図表3-3-1)。

図表3-3-1 理想の子どもの数と実際の子どもの数の推移



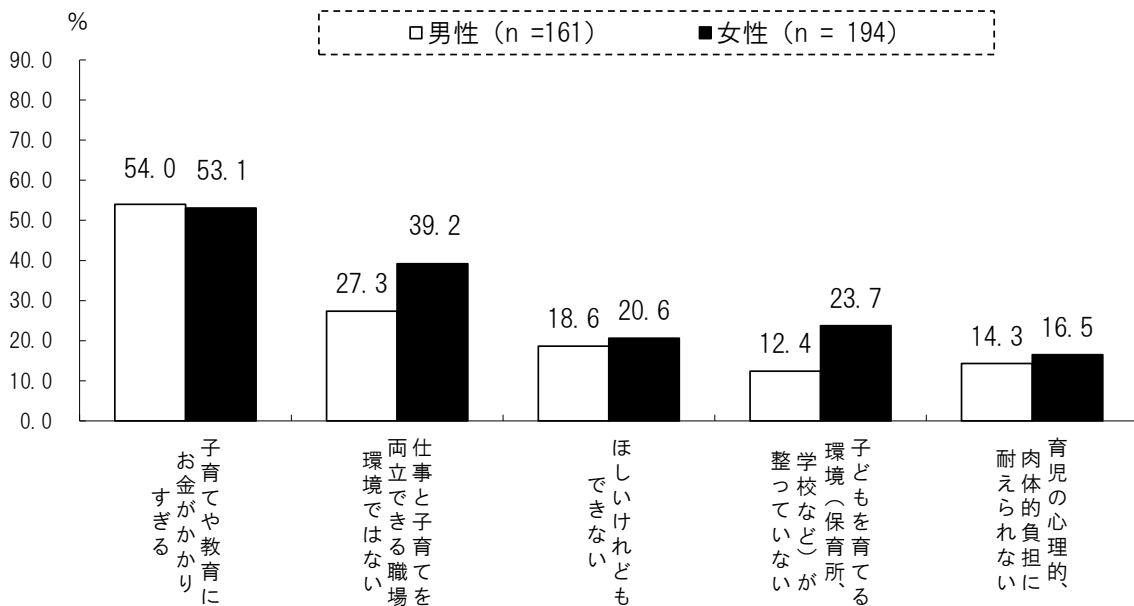
※第1回及び第4回調査では実際の子どもの数と理想の子どもの数について質問していないため、上記のようなグラフとなっています。

(2) 性別×実際の子どもの数と理想の子どもの数の差が生じる理由（18～40歳代）

18～40歳代の実際の子どもの数が理想の子どもの数より少ない理由は、男女のいずれでも「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が最も多くなり、同程度の割合となりました。

「仕事と子育てを両立できる職場環境ではない」は、女性の方が男性より11.9ポイント高く、「子どもを育てる環境（保育所、学校など）が整っていない」でも、女性の方が男性より11.3ポイント高くなっています（図表3-3-2）。

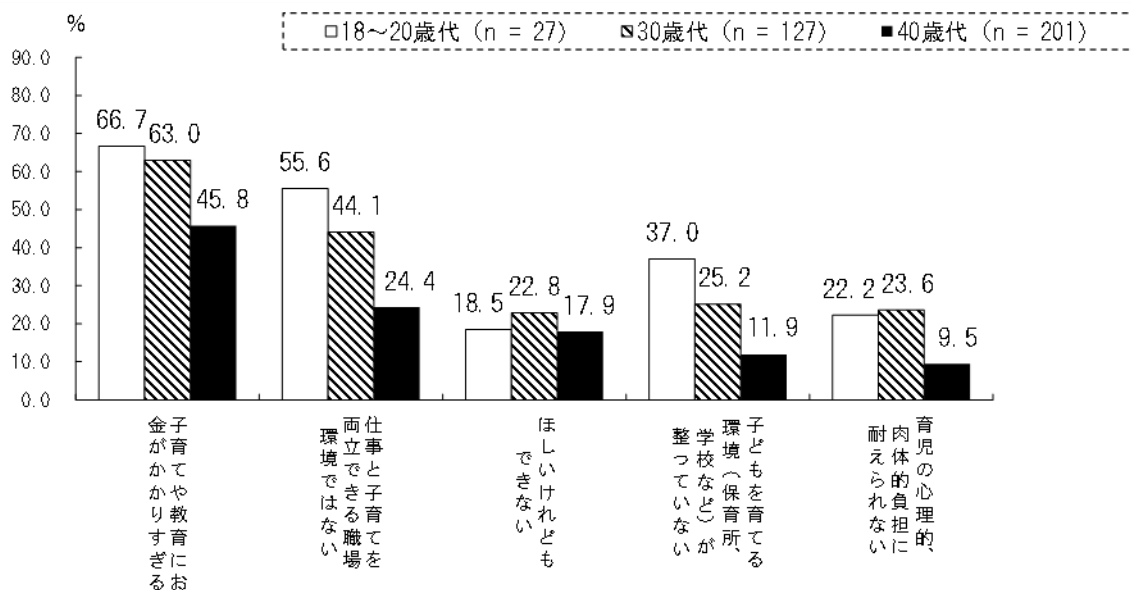
図表3-3-2 実際の子どもの数が理想の子どもの数より少ない理由（18～40歳代の上位5項目：男女別）



(3) 年齢別×実際の子どもの数と理想の子どもの数の差が生じる理由

18～40歳代の実際の子どもの数が理想の子どもの数より少ない理由を年齢別にみると、どの世代においても「子育てや教育にお金がかかりすぎる」を選んだ割合が最も高くなりました（図表3-3-3）。

図表3-3-3 実際の子どもの数が理想の子どもの数より少ない理由（18～40歳代の上位5項目：年齢別）

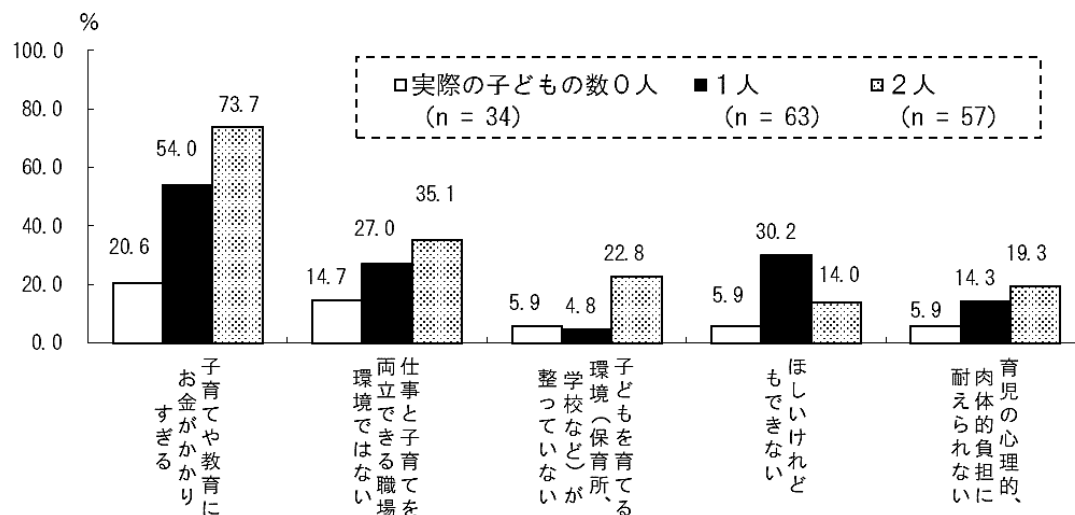


#### (4) 子どもの数別の実際の子どもの数と理想の子どもの数との差がある理由

実際の子どもの数が理想の子どもの数より少なかった有配偶の18～40歳代を対象に、実際の子どもの数が理想の子どもの数より少ない理由について、性別、実際の子どもの数別でクロス分析を行いました。

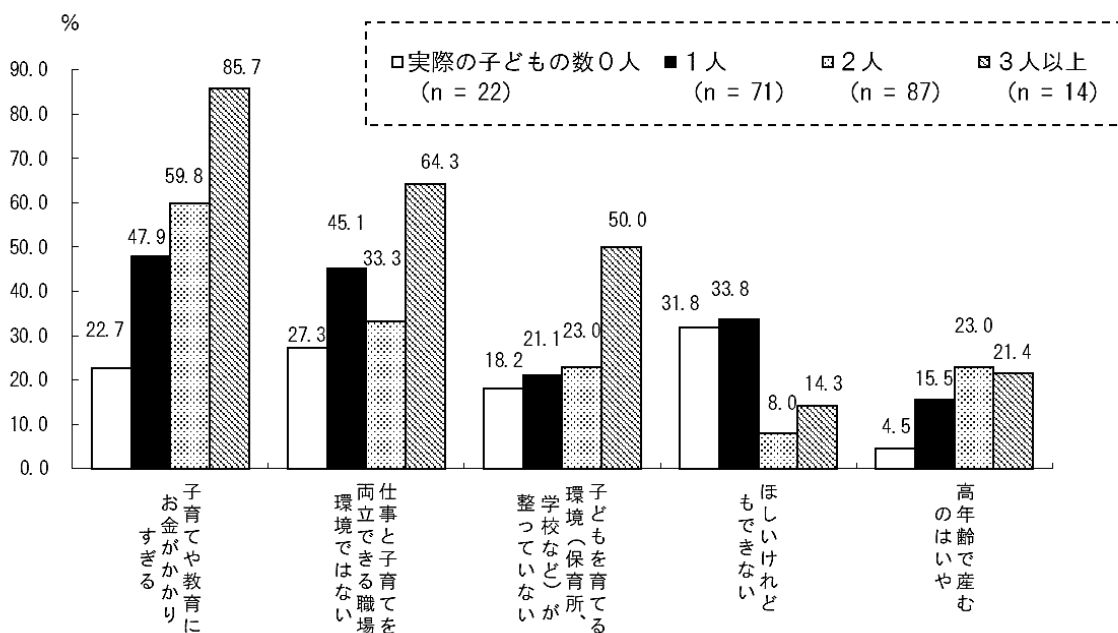
実際の子どもの数が1人の場合、男性では「子育てや教育にお金がかかりすぎる」を選んだ割合が最も高く、2番目以降を選んだ割合より20ポイント以上高くなっていました。女性の場合、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」と「仕事と子育てを両立できる環境にない」を選んだ割合が同程度に高く、また、「子どもを育てる環境が整っていない」を選んだ割合が、男性より16.3ポイント高くなっていました(図表3-3-4、図表3-3-5)。

図表3-3-4 実際の子どもの数が理想の子どもの数より少ない理由 (18～40歳代の男性の上位5項目)



(備考) 実際の子どもの数が3人以上の層はサンプル数が10未満のため、掲載を省略しています。

図表3-3-5 実際の子どもの数が理想の子どもの数より少ない理由 (18～40歳代の女性の上位5項目)



## ■少子化対策（妊娠・出産、子育て）に係る政策の示唆

幸福感と最も相関関係のある幸福実感指標は、「結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、子どもが豊かに育っている」であることから、少子化対策を推進し、結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、全ての子どもが豊かに育つことのできる環境づくりを進めることが、県民の幸福実感を高めるために有効であると考えられます。

今後の少子化対策については、実際の子どもの数と理想の子どもの数にギャップがある理由に関する属性別の傾向を踏まえ、きめ細かな対策を講じることが重要であると考えます。

特に「お金がかかりすぎる」「仕事と子育てを両立できる環境にない」と思う割合が高かったことから、引き続き、所得向上につながる就労支援やキャリアアップ支援、待機児童の解消など、働きながら安心して子育てができるような対策が必要です。

また、「ほしいけれどもできない」も一定の割合で選択されていることから、不妊に悩む夫婦に対する支援についても継続して取り組むことが重要であると考えます。

また、男女それぞれのギャップの理由を比較すると、男女で理想の子どもの数は 2.4 人と差がなかったにもかかわらず、実際の子どもの数が 1 人の男性女性を比較すると、男性では「お金がかかりすぎる」を選んだ割合が最も高く、2 番目、3 番目の理由を選んだ割合と 20 ポイント以上の差がありました。

一方、女性の場合、「仕事と子育てを両立できる環境にない」を選んだ割合が、「お金がかかりすぎる」と同程度に高く、また、「子どもを育てる環境が整っていない」を選んだ割合が、男性より約 16 ポイント高くなっていました。

このことから、女性の方が仕事と子育ての両立に不安を抱えていると考えられることから、働き方改革を一層推進するために、企業への働きかけなどを通じて、長時間労働の是正や男性の育児参画等の取組を広げていくことが重要と考えられます。

より効果的に成果が表れるよう、引き続き、現在の取組の効果検証を行いながら、市町、企業と連携し、きめ細かな対策を進めていく必要があります。

みえ県民意識調査分析レポート（令和元年度）  
－ 県民の幸福実感向上のために －

---

令和2（2020）年3月  
三重県 戦略企画部 企画課

〒514-8570 津市広明町13番地  
T e l : 059-224-2025  
F a x : 059-224-2069

E-mail : [kikakuk@pref.mie.lg.jp](mailto:kikakuk@pref.mie.lg.jp)  
URL : <http://www.pref.mie.lg.jp/KIKAKUK/HP/mieishiki/>

---

